

—観光施設も進み本格化した瀬の本高原—



備、管理中枢機能の増大、交通条件の整備などを推進し、中心都市としての育成をはかる計画です。

今後、この地域は、新産業都市建設基本計画による工業開発とあわせて、地域の経済的、社会的、文化的な集積を増大し、地域全体を通じて一体的な大都市としての形成を促進するとともに、九州縦貫高速自動車道や鹿児島本線の複線化、電化、空港、港湾、その他の一線国道三号線、五七号線、二級国道熊本佐賀線、熊本延岡線、熊本宮崎線など域外と結ぶ交通網の整備により、九州地方の中心としてその地方の中心としてその地位を高めていく必要があります。

振興地域

振興地域は、新産地域の周辺に位置し、その直接の波及効果を受け、新産地域と密接に関連しながら発展する地域です。

この地域は、主として農業の伸長を基盤として今後の発展を期待すべき地域ですが、新産地域における都市化工業化の進展や九州縦貫高速自動車道の建設などにより、他地域との経済交流が活発化するとともに、この地域の農業および林業を取り巻く経済的な諸条件も急速に変化することが予想されますので、これらの変化に即応して、農林業の近代化を促進するとともに、観光の開発や既存工業の

育成など地域の立地条件の有効利用をはかります。

しかし、地理的には、新産地域の東側に接する北部地域と、南に続く南部地域に分かれ、自然条件や新産地域との接続関係も異なっていますので、二地域に分けて考える必要があるわけです。

■北部地域

北部地域は、菊池川および緑川中流域の肥沃な農業地帯を中心として、周辺の山麓地帯を含む南北に細長い地域です。このため、新産地域との接続関係は極めて密ですが、地形的には変化に富んでいるので、地域全体としてのまとまりに欠けるきらいもあるわけです。

このため、新産地域と接続する一級国道五七号線、二級国道熊本延岡線、主要地方道熊本日田線、山鹿大津線（いわゆる城北産業観光開発道路）、熊本浜線などの整備を推進するとともに、主要地方道大津甲佐線、宮原甲佐線などの整備をはかり、地域の経済交流さらに促進します。この地域の農業は、良質米として知られる菊池米の生産地を含み、水稻の反当収量も県内最高を記録しています。畜産についても、県内における酪農の先進地であり、養蚕その他工芸作物も高い比重を占めています。したがって、今後米、畜産養蚕を基幹としてこの地域の農業の生産性を高めていきますが、菊

池台地、益城台地など水不足や農道の不備などの問題を内包している地帯も多いので、特に用水の確保と農道およびほ場整備を重点とした土地基盤整備を行い、機械稲作技術を導入して、畜産および養蚕の比重を高め、水田地帯はもとより畑地や山麓耕地の利用度を高めます。

果樹については、菊池台地および飯田山麓の二団地に適地開発を行ない、その他そさいや特産についても集団化と生産性の向上をはかります。

一方、菊池市のほか各道路の要衝に当たる大津、益城、御船、甲佐などの市街地は、周辺農村地帯に対する商業、行政、教育、農業整備のセンターとして地域社会の発展に果たす役割が大きいので、地方的な中心として育成するとともに、それぞれ適地に内陸型工業の誘導をはかります。

■南部地域

南部地域は、不知火海に面する丘陵地

で、最近果樹の大集団産地として脚光をあびています。また、水俣市、坂本村、田浦町には、化学、製紙、窯業などの工場が立地しており、海岸地帯は、海岸美と温泉地に恵まれた観光の適地でもあります。

最近、一級国道三号線の改良により、この地域の交通条件は著しく好転し、新産地域と南九州を結ぶ中間地帯としての役割が期待されずるとともに、地域の北部は直接新産地域の八代地区と接し、相互の経済交流が期待されます。

したがって、今後鹿児島本線の電化複線化など交通条件の一層の改善をすすめ、新産地域との接続関係を深める必要があるわけです。

この地域の農業開発の重点は、果樹ですが、このため、国有・公有林の活用、民有林の交換などによって適地を求め、小規模土地改良によるほ場整備や農道の新設改良により、用水防災農道などを完備した甘夏、温州みかんの新興大産地の造成をはかります。

〈図5〉 振興（北部）地域開発構想図

